

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立瓜生小学校

(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他(例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206 - 0025

多摩市永山5-13

E-mail ichikawa-toshiya@city.tama.tokyo.jp

Website

幼児児童生徒数 男子 109名 女子 124名 合計 233名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要(800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「すすんで学ぶ子」「思いやりのある子」「きたえる子」を学校理念として、ESDを持続可能な社会の担い手となるよう意図的・計画的な体験活動を重ね、ESDの実践を通して、自分を大切にし、さらに自他ともに尊重する豊かな心の育成を目標とした。

具体的には、環境、伝統文化の継承、地域との連携をした体験活動を柱に、①リサイクル活動、②日本の伝統に係わる教育、③食育に係わる学習、④環境に係わる学習を行った。

① リサイクルに係わる活動(瓜生まつり)

きょうだい学年で協力し、お店の内容を決め、装飾や景品、運営まで児童主体に取り組む「瓜生まつり」。お店や景品で使用する材料について、リサイクルが可能なものを意識して、使用した。各お店の前には「環境」についてのどのような工夫をしたのかを掲示し、リサイクルについての意識を高めた。

② 伝統に係わる教育（瓜生太鼓）

本校では、本校の伝統として全校児童が和太鼓に親しみ、またその発達段階に応じて内容を工夫しながら活動をしている。学年ごとに全員が参加して演奏することで、児童の心に一体感が生まれ、協力してよい演奏をしよう、互いに教え合おうという意識が生まれている。さらに、上級生が下級生にアドバイスすることで、和太鼓の技術が伝承され、活動意欲も日に日に高まっている。

③ 食育に係わる学習

5年生が、校庭にあるビオトープの一部を使い、米作りを体験した。地域の人の指導のもと、苗植え、収穫、脱穀、もち米料理まで行った。自分たちで生産から消費まで行うことで、食物を得ることの大変さを知ることができ、食に関する意識が高まった。また、地域の方との交流もでき、輪を広めることができた。

④ 環境に係わる学習

4年生では「環境」をテーマにグループで課題を決め、「酸性雨」「地球温暖化」「海洋ゴミ」「オゾン層の破壊」等、様々な課題から調べ、分かったことをまとめ、聞き手に分かりやすくするための工夫をして発表した。発表後には、自分たちが様々な環境問題に直面していることに気付き、課題意識をもつことができた。

① の写真（キャプション）



② の写真（キャプション）



③ の写真（キャプション）



④ の写真（キャプション）



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動
- ・ オリンピック・パラリンピック学習読本

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校の教育目標を達成するための基本方針の中で、生活科及び総合的な学習の時間、特別活動等における意図的・計画的な体験活動の実践を重ね、ユネスコスクールとして地域社会、保護者と連携して持続可能な社会の担い手となる児童を育むと定めている。そのために、

(ア) 人や自然とのふれあいや多様な体験活動を取り入れた実践を通して、自然環境への豊かな感受性を育成する。

(イ) 我が国の伝統文化である和太鼓の学習を通して、文化を受け継ぎ、演奏を披露及び発信することにより和太鼓のよさを広く伝え、持続発展可能な社会を構築する心を育てる。

指導方法の改善には、学習したことを評価し改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校の伝統的な和太鼓学習では、全体計画や年間指導計画に位置づけ全学年で取り組んでいる。

1年 「龍神太鼓」 2年 「ぶちあわせ太鼓」

2年 「嵐山太鼓」 4年 「龍神太鼓」

5年 「こどもばやし」 6年 「ぶちあわせ太鼓」

上級生が下級生に教えることもあり、断続的に活動が続いている。教員も夏に瓜生太鼓の研修を実施して、学校全体で和太鼓に取り組む環境を作っ

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートにおいて、保護者、学校運営協議会の方々に「和太鼓の学習は成果が表れていると思いますか」「たてわり班や学校行事での『異年齢集団活動』はよい結果が出ていると思いますか」と質問し、和太鼓については、98%、異年齢集団については、80%を超えて、よい結果であると回答している。課題は、まだ、集団の中で、自分の意見をいうことが苦手な児童に対し、意見を言える環境をさらに作っていくことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

瓜生太鼓では、1年生が6年生を送る会、2年生が1年生を迎える会、3年生が地域の行事 4年生が地域の行事 5年生が連合音楽会、6年生が高齢者施設で成果を発表している。リサイクル活動を重視する瓜生まつりでは、保護者・地域の人たちを招待して行った。人前で演奏することで、自信が付いたり、協力して店を出店することで、仲間を大切にすることが高まり、物を大切にしようとする気持ちもより高まった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・ 瓜生ひろばの代表者を通じて、専門的な指導ができる人をゲストティーチャとして招き、農業体験、自然観察体験を行った。
- ・ 玉川大学TAPセンターと連携し、特別活動の指導、交流の仕方の体験を行った。
- ・ 多摩市福祉交流会と連携しての障がい者の方との交流体験を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

多摩市内のESD発表会に代表が参加し、他校の情報を収集し、校内に回覧し広めた。本校が今年度取り組んだ実践事例について、多摩市に報告したり、全校の取り組みを回覧したりしてネットワークを構築している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校は、時期は学年によって異なるが、1年を通じて和太鼓の音が学校の中に響いている。和太鼓に取り組む時の児童は、目が輝き生き生きとしている。子供たちの心の中に、太鼓に取り組むことへの誇りが育まれている。保護者や地域も子供たちの演奏に大きな期待を寄せており、子供たちもその期待に応えようと努力し、学校と保護者・地域が良好な関係となり、協力体制が構築されている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

環境に関する活動

- ・ 瓜生まつり リサイクルに全校で取り組みエコの啓発
- ・ 地球環境 様々な地球環境の状況を知り、保全のために行動する
- ・ 生物環境 ヤゴ採りやビオトープの観察を通して、水生生物について認識を深める

伝統文化

- ・ 瓜生太鼓
- 1年 「龍神太鼓」 2年 「ぶちあわせ太鼓」
- 3年 「嵐山太鼓」 4年 「龍神太鼓」
- 5年 「こどもばやし」 6年 「ぶちあわせ太鼓」

食育

- ・ 米作り 苗植え 収穫 脱穀 食

福祉

- ・ 障がい者体験

国際理解

アートマイル国際交流画 共同制作